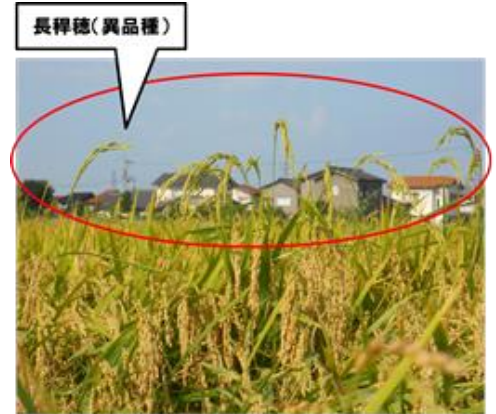


漏生イネ対策特集

漏生イネ対策（品種変更予定のほ場）

同一品種を作付するのが一番ですが、どうしても、前作と異なる品種を作付する場合は下記の対策1～3が必要です。



【対策1】 前作水稲収穫後、ただちに秋耕

(10月中)し、こぼれた籾を土中に

埋没させ、翌春の発芽率を低下させる（秋耕が遅れると、2番穂が登熟するとともに、翌春発芽率を低下させる効果が低いので注意する）

【対策2】 春の田植え前、2回代かきを実施

（代かき間隔を7日以上あけ、浅水代かきとする）

【対策3】 田植え直後（同時）に初期除草剤を散布（その後適期に一発除草剤散布）

「ソルネット1キロ粒剤」（成分：プレチラクロール）

【対策1が実施出来なかった場合】

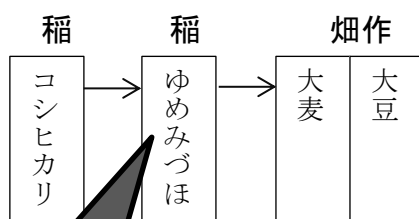
- ① 耕起前に「プリグロックスL液剤」1000ml/10a（希釈水量 100～150L）を全面土壤散布（イネ科種子に散布すると発芽生育能力を失う効果）
- ② 耕起前に石灰窒素50kg/10aを散布。散布後は、ほ場をなるべく乾かし3週間程度は耕起しない。次年度の水稲施肥Nを1kg/10a程度減らす。

対策を組み合わせ、発生する密度低減を図る。
ただし、完全に発生を防除することは難しい。

【麦・大豆でローテーションする場合】

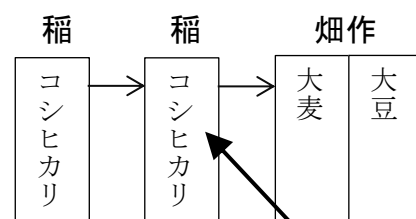
- ・基本的に、畑作前の2年間の水稲は同一品種を作付する。
- ・品種を切り替える時は、畑作→水稲のタイミングで実施する。

×発生している例



コシヒカリの
漏生籾発生×

○品種変更しないローテーションを考えましょう



「水稲コシヒカリ→大麦」となるほ場は、水稲栽培中の中干し・溝切りの徹底、刈取り後の排水溝設置など、より排水対策に努め、大麦播種に支障の無いようにする。